

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査結果について

廿日市市立四季が丘小学校

平成30年4月17日に実施された平成30年度全国学力・学習状況調査（学力テスト）の結果と分析について、次の通りお知らせします。

本調査は、教育の成果や課題を確かめ、改善するために、小学校では6年生を対象に平成19年度から実施されています。学力調査について、「主に学んだ知識をどれだけ覚えているか（A問題）」と「主に覚えた知識をどれだけ活用できるか（B問題）」の2パターンで実施されています。

### ◆教科に関する調査

平均正答率（％）

	国語		算数		理科
	A問題	B問題	A問題	B問題	教科全体
四季小	75.0	62.0	70.0	55.0	68.0
廿日市市	72.0	58.0	65.0	53.0	62.0
広島県	73.0	59.0	66.0	54.0	63.0
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

国語・算数・理科全ての教科について、全国・県・市の正答率を上回りました。

### ◆生活習慣や学習環境に関する調査（主なもの）

児童数の割合（％）

質問事項	四季小	広島県	全国
朝食を毎日食べていますか。	93.7	97.0	94.5
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	82.9	71.8	67.7
家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。	76.5	65.8	62.6
家の人と学校の出来事について話をしますか。	92.2	81.0	80.5
今住んでいる地域の行事に参加していますか。	64.1	65.6	62.7
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。	81.3	68.8	63.8

子どもたちの生活習慣と学力とは密接な関係があります。子どもたちの教育は、単に学校だけでなく、学校・家庭・地域社会がそれぞれの適切な役割分担を果たしつつ、相互に連携して行われることが重要となります。「朝ごはん」「家庭学習」「地域連携」は学力向上と大きくつながっています。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

学校では、これらの結果を受け、現状に満足することなくよりよい学校教育が行われるよう、全教職員で共通理解を図りながら授業改善を進めてまいります。

## 【今後の取組】

**どの教科でも既習事項をもとに粘り強く問題の解くことに取り組み、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることを大切に指導します！**

### 国語

- ・ 説明文「表現の工夫・読み比べ」の学習において、書き手の意図や目的に応じた表現の工夫を読み取る力を身に付けさせます。そのために、低学年では説明の仕方（表現）の違い、中学年では目的に応じた表現や構成の工夫、高学年では目的や意図に応じた表現や構成の工夫を読み取る等の系統的な指導を「課題発見・解決学習」の過程を取り入れて位置付けます。
- ・ 主語・述語の関係に着目し、適切に照応させて文を正しく書く力を身に付けさせます。そのために、低学年から自分の考えを形成させる場として日記や記録文、新聞、投書等を相手意識・目的意識を明確にし、文字数を意識して書く活動を積極的に取り入れます。

仲間との対話を通じて、既習事項をもとにして考えたことをさらに深めていきます。



### 算数

- ・ 解き方や考え方に理由や根拠を挙げ、図・式・表・グラフ・算数ことば等を適切に用いて話し合う活動の場を設定し、タブレット等のICT機器を効果的に活用して分かりやすく伝える力を身に付けさせます。
- また、多面的に見て読み取った情報をことばで整理したり、図・表・グラフと式やことばを関連付けて表現したりする活動を取り入れます。



一人一台タブレットを使って、自分の考えを書いたり、説明し合ったりします。



タブレットは体育の授業でも活用し、考える楽しさを味わっています。



### 理科

- ・ 観察・実験や体験的な活動における道具や器具については、その名前や正しい使い方、使用目的について根拠をもとに整理した上で取り扱い、慣れさせていきます。
- ・ 問題解決の過程の中で、理由を明確に説明する学習活動を設定します。
  - ①仮説を設定する際に、根拠を表現させます。
  - ②実験方法を考える際に、なぜその方法がよいのかその理由を表現させます。
  - ③考察する際に、仮説と結果の関係を明確にして自分の考えを表現させます。

